



教育に新聞を

2022年度 大分県N I E 実践報告書

目 次

《実践報告》

情報とどう向き合いどう生活に生かすか ～図書館司書との連携 地域に根ざした取組を通して～
中津市立三郷小学校 臨時講師 瀬口 保美・・・ 2

楽しく取り組むN I E ～5年生を中心とした実践～
大分市立城南小学校 教諭 大津 友香・・・ 6

自分の考えを持ち、伝えあえる子どもの育成を目指して ～新聞活用を通して～
佐伯市立八幡小学校 教諭 川野 弥生・・・ 10

令和4年度N I E実践報告
別府市立中部中学校 校長 佐藤 裕一・・・ 14

N I Eに親しみ、学び、楽しむ生徒の育成 ～全校挙げての取り組みを通して～
竹田市立竹田南部中学校 教諭 佐藤 美登里・・・ 16

「社会と自分たちの関わりについて共に学び合おう」 ～新聞の切り抜きポスターを通して～
日田市立前津江中学校 教諭 梅田 由紀夫・・・ 20

新聞を開き、未来を拓く ～主体的に課題を発見して解決の方策を考えようとする生徒の育成～
大分県立大分舞鶴高等学校 教頭 中川 博至・・・ 24

新聞を通して考える 社会と自分 ～社会の一員としての多様な力を育む方法を探る 2年目～
大分県立佐伯豊南高等学校 教諭 小坂 吏香・・・ 28

《2022年度大分県N I E実践指定校》《2022年度大分県N I E推進協議会の活動》・・・ 32

《N I E実践研究会とN I E子ども会議》・・・ 33

《大分県N I E推進協議会 会則》・・・ 34

《2022年度大分県N I E推進協議会役員等》・・・ 36

【おことわり】 この報告書に記載されている所属・肩書は、2022年度当時のものです。

情報とどう向き合い どう生活に生かすか

～図書館司書との連携 地域に根ざした取組を通して～

中津市立三郷小学校 臨時講師 瀬口 保美

1. はじめに

本校は、全校児童 52 名（2・3年複式学級）で、学級担任 6 名の小規模校である。

日常的に異学年と交流する活動が多く、高学年が低学年にタブレットの使い方を教えたり、朝読書の時間に読み聞かせを行ったりしている。

また、全学年を縦割り班とし、毎日の清掃活動に取り組み、学年を跨いで交流を深めることで、体力づくり（学校体育等）の取組や学校行事の取組を活性化して行えるようにしている。

さらに、本校は「三郷小みどりの少年団」として活動しており、生活科や総合的な学習の時間に探求的課題を設定して地域に根ざした取組を推進している。40 年間、地域に支えられ続けているこの活動は、今年度は 11 月に、全国みどりの少年団実践発表や全国育樹祭への参加へとつながった。

また、発足 4 年目となる学校運営協議会が、学校の様々な教育活動を支えてくれている。コロナ禍においてなお、地域の方が指導者となり体験活動を行えることは、小規模校ならではの良さと感じている。

さらに、隣接する給食センターには栄養教諭が常勤し、地域の特産を生かした食育が積極的に行われている。

以上の本校の特性をもとに、N I E（教育に新聞を）教育をいかに効果的に活用できるのかを模索した 2 年間の実践報告である。

2. 取組の基本方針

本校が、育成を目指している資質・能力は、「言語能力・問題発見解決能力」である。子ども

たちが、どのように情報（新聞・言語）と向き合い、そこに含まれる言葉の意味を知り、課題に気づき、体験を通して深く考え、それを自分の生活にどう生かしていくか、挑戦（問題発見解決）していくかを取組の中心とした。更に、学校教育目標～課題に「気づき」深く「考え」共に意欲を高めて「挑戦」する三郷っ子～の実現に向けて、以下の点を N I E 実践における基本方針とした。

- ・児童の興味・関心・意欲を高める
- ・自分の生活との関わりを大切にする
- ・教科横断的教育課程の展開を図る
- ・みどりの少年団の活動目的を意識する
- ・食育の取組と連携する
- ・委員会活動（縦割り活動）を活用する
- ・図書館司書と連携した取組を取り入れる
- ・教職員の負担軽減・スケジュール化を図る

3. 実践事例

前項の基本方針をもとに、N I E 担当が図書館司書と連携して取組を進めている。具体的には、N I E 担当が、会議等で必要に応じて全教職員に N I E 教育について、共通理解を図る。図書館司書は、N I E 担当者や学級担任と連携して、各活動の資料となる新聞記事を提示したり、スクラップファイルにして資料を活用しやすくしたり、各学年に関係ある新聞記事とともに N I E プリントを配布したりした。

以下は、その実践事例である。

- (1) 新聞を活用した取組 その①
○みどりの少年団の活動

4月27日(水)、みどりの少年団結団式と全国育樹祭苗木の贈呈式を行った。それが、5月3日の朝刊に掲載され「新聞に出ていたね」と声をかけられることで、子どもたちの関心・意欲はさらに高まった。図書室前に記事を掲示し、学校新聞でも活動内容を随時掲載し、地域に紹介した。

三郷小みどりの少年団の目的は、『森林活動を通して、自然に親しみ、ふるさとを誇りに思う子どもを育てる』である。各活動を通して、大切なふるさとを豊かに守り続ける『自然愛護』と生活に根ざした『防災意識』を高める内容が含まれている。このことは、持続可能な社会、SDGsの取組と通じている。



図書館司書がこの意義を理解し、適時、新聞記事から各学年に資料を配付したことは、子どもたちの知識の幅が広がり、語彙を増やすことにつながっていた。また、図書館前の新聞記事のスクラップは、機会あるごとに児童が手にとって見ており、情報を日常的に得る環境ができていたと言える。



左下の写真は、教育課程の内容と連動させて取り組んだ授業の様子である。新聞の紙面構成

について考えたり、関連のある記事を切りぬいてまとめたりしている。このときは、みどりの少年団の内容「防災」に視点を置いていた。

(2) 新聞を活用した取組 その②

○食を通じた健康教育の推進

～地域の特性を生かし、共に学び、

地域に誇りを持つ三郷っ子の育成～

栄養教諭が図書館司書と連携して、新聞記事から学校給食や栄養、健康、地域の生産者の願いについて子どもたちと考える実践を紹介する。

①ひとくちメモの取組

毎日の献立について記載した「ひとくちメモ」を栄養教諭が作成し、家庭配布用の献立表の裏に印刷している。主に地産地消や地場産物に重点を置いて記載し、新聞記事の食に関する記事も要約して記載することもある。11月に鳥獣被害対策で捕獲された鹿肉を食材として使った際は、図書館司書から提供してもらった大分合同新聞の県内の鳥獣による農林水産物の被害についての記事を活用し、被害の大きさやジビエとして命をいただく大切さについて、ひとくちメモに記載した。家庭配布用の献立表に記載することで、児童生徒だけでなく、家庭でも読んでもらえることができている。また、本校では、このひとくちメモを毎日の給食の時間に放送・給食委員会の児童が読んでいます。

②郷土料理や地場産物を使った「ふるさと給食」や「学校給食1日まるごと大分県」の取組

地場産物を使った「ふるさと給食」や「学校給食1日まるごと大分県」の際は、カラー印刷の特別版のお便りをクラスに配布したり、給食時間に栄養教諭がクラスに訪問し、取組についての講話を行ったりしている。

5月に耶馬溪茶を食材として使った際は、大分合同新聞の「耶馬溪茶」の記事を使ったり、11月に大分県産のたこを使った際は、大分合同

新聞の「国東産タコの宇宙食、商品化へ」の記事を使ったりした。記事を活用することで児童に生産の様子を写真で伝えることができたり、地域の生産者の思いや時事の様子を伝えることができたりするので、児童は関心を持って栄養教諭の講話を聞いていた。

二つの取組を通して、児童は学校の体験活動と結びつけたり、知識を深めたりすることができるため、食材や地域に興味を持つことができ、食べる意欲につながっていた。

(3) 新聞を活用した取組 その③

○各学年の取組

6年 スキルタイムでの書く活動

～NIEプリント新聞読んでやってみよう～

本校は、金曜日の（13：45～14：00）スキルタイムの時間に小作文【短作文】の時間を設定している。そこで使ったワークシート（NIEプリント）は、図書館司書が担任の意見を参考に作成したものだが、みどりの少年団の活動と関連して、SDGsの視点から（環境に負担をかけない服作り）の新聞記事をもとに行った実践である。

（問題）NIEプリントより

- ①捨てられる漁網をどのようにして加工して、柔らかい布を作りますか。
- ②環境にできるだけ負担をかけないようにして作られた服を着てみたいですか？着たくないですか？理由も教えてください。

子どもたちは、記事の趣旨をまとめ、自分の考えを友だちと意見交換（対話）することで、さらに「そんな考えがあったのか」「（表示ラベルを見てもう一度）自分の服はどうか」と考えを深めていった。

実践をする中で、最初記事に書かれている言葉の意味把握や文章量の多さに戸惑いが見られた。そこで、図書館司書も実践を参観し改善

していった。この取組の中で言葉や社会（生活）に触れ、自分たちの生活に深く向き合う機会となった。



5年 スキルタイムでの書く活動

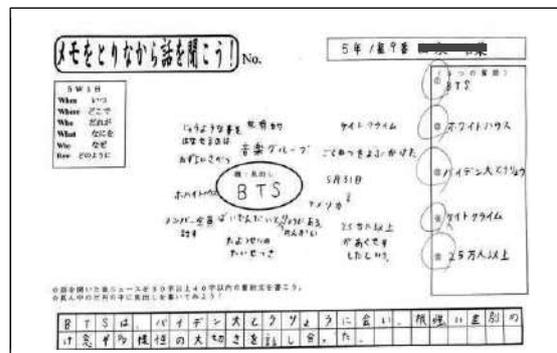
～NIEプリントを要約してみよう～

読解力向上をねらい、児童の興味や関心がありそうな新聞記事やコラムを選び、要約に挑戦させた。ポイントは次の通りである。

- ▶ メモを取り、5W1Hを明確にする。
- ▶ 40字以内で要約する。
- ▶ 主語と述語、5W1H、キーワードを入れる。
- ▶ 難解な時事用語はタブレットで検索する。
- ▶ 意欲の継続化のため、児童の興味がありそうな記事やコラムを精選した。



「大分合同新聞」の記事を資料として引用



最初はかなり時間を要し簡単で短い文章が多かったが、徐々にキーワードを捉え自分の考えをまとめて簡潔な文章での回答ができるようになってきた。このような取組を粘り強く続け、国語力が高まることを期待したい。

4年 ～森林学習（山国川、中津干潟観察）

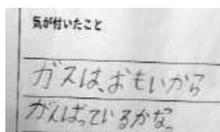
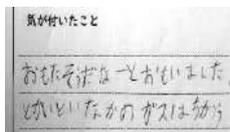
のまとめとして、新聞を作ろう～

見出しの書き方、割り付けなど、新聞を参考にして学習を進めた。

児童は、中津干潟や山国川で見つけた生物を調べて書いたり、活動中にとった写真をどの記事に組み合わせて貼るかを考えたりして、読み手の目を引く魅力ある新聞を作成した。また、イラストを入れたり、見出しにこだわったりして工夫を凝らし、意欲的に取り組んだ。

3年 社会 ～地域の仕事を調べよう～

大分合同新聞の「長尾商店」の記事を使って地域学習をした。身近な人の仕事を取り上げられていて興味をもって読み、まとめとして新聞作りに取り組んだ。



保護者の仕事を取り上げられていて、児童も喜んで取り組んだ。後日、社会科での仕事調べの学習で、ガス屋さんを調べ学習の題材に選んで、調べたことを活かし、新聞作りにつなげた。

(4) 新聞に親しむ活動 その④

○委員会活動（常時活動）

4・5・6年生の委員会活動では、時事内容や興味を持った内容を中心に、記事を紹介する掲示物作りを続けている。

また、図書館前のスペースを活用してスクラップブックを展示している。それぞれカテゴリー別に冊子になっていて、児童の興味を引くような工夫をしていたり、タイムリーな記事をもとにクイズを出題していたりする。最初は記事を読むことが苦手で、すぐに「わからない」と聞きに来ていた児童が多かった。しかし、取組を続けることで、クイズが毎週変わるのを心待ちにしている児童も増え、問題を簡単にしたわけではないが、新聞記事をていねいに読んで自分で答えを見つけられるようになってきた。

図書委員会に入っている子どもだけでなく、ふだん新聞をあまり読まない子にとっても、世の中の出来事に触れたり、興味ある情報や楽しみを得たりするひとつの機会となっている。



4. まとめと今後の課題

今年度は、N I E実践の2年目にあたり、昨年の取組を生かして、下記の点において、ブラッシュアップできた。

- ① 図書館司書との連携
- ② 生活・総合的な学習の時間や特別活動、食育等、教科横断的に教育課程の展開を図る

本校が育成を目指している資質・能力「言語能力・問題発見解決能力」の習得に向けて、今後も、N I E教育を継続していきたい。

楽しく取り組むN I E

～5年生を中心とした実践～

大分市立城南小学校 教諭 大津 友香

1. はじめに

本校の教育目標は、「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく行動できる子どもの育成」である。それを受け、「自分の考えを持ち、伝え合うことを通して、学びを広げ深めることのできる子どもの育成」をテーマに掲げ、研究を行っている。今年度NIEの実践指定を受け、新聞を利用して調べたことや考えたことを伝え合う活動を通して、子どもたちの思考を広げたり、社会や地域についての理解を深めたりすることをめざして取り組みを進めてきた。以下に本年度の実践を紹介する。

2. 本年度の実践について

① 新聞に親しむための環境整備

5.6年生の階の手洗い場の横に「新聞閲覧コーナー」を設置した。今日の新聞が1番上になるように、新聞社ごとに今週の分を机の上に並べた。手洗い場の横に設置することで日常的に新聞を目にすることができた。また、新聞社によって1面の記事が違うことや、同じ記事でも見出しが異なることがわかりやすく、比較しながら読む姿が見られた。



「新聞閲覧コーナー」の前面には、クライマックスシリーズやワールドカップ、お正月特集など、新聞記事を集めた掲示を行った。



同じようなものを作りたいと自分から記事を集める児童が現れ、トリニータの記事を探したり「質問ドラえもん」を集めたりと、意欲的に新聞を読むことにつながった。



② 5年生での実践

ONIEのワークシート

本校では、毎週木曜日の8:20~8:35の15分間、読解力や計算力の向上に取り組む「はなまるタイム」が設定されている。年度当初からこの時間に「読売新聞ワークシート通信」を活用し、新聞記事を読み、考えたことを交流する活動を行った。

教科や難易度を選ぶことができたため、子どもの関心に合わせてまずは簡単なものから取り組むことができた。「今」社会で起きている事柄を全体で考えることで、自分なりの見方や考え方を持つきっかけとなった。また、さらに知りたくなったことを調べ、自学ノートにまとめる児童もいた。



○吹き出しバトル

楽しみながら新聞と触れ合ってほしいという思いから、こちらも年度当初から取り組んだ。「新聞に載るかもしれない」「図書カードがもらえるかもしれない」とワクワクしながら取り組む児童が多くいた。どのような作品が選ばれているのか過去の記事を探したり、こちらが呼び掛ける前から次回作を考えたりする児童もいて、毎回盛り上がった。誰でも取り組みやすく、担任としても子どもたちの新たな1面を見ることができて興味深かった。普段目立ちにくい児童にスポットライトが当たり、これをきっかけに自信を持った児童もいる。

○新聞を使った1分間スピーチ

9月から新聞が届くようになり、朝の会や社会の時間に、新聞を使った1分間スピーチを始めた。日直が前日までに興味のある(気になる)記事を選び、その記事の要約や選んだ理由、記事を読んだ感想を発表し、それについて周りの児童が質問や感想を伝えるようにした。

当初はスピーチ用の記事を選ぶことから難しく、はなまるタイムや授業時間を使って班で協力して記事探しをした。こちらが時間を設定することで、床も使って新聞を広げ、楽しみながらたくさんの新聞と触れ合っていた。新聞には5年生段階では未習の漢字が多く、前後の文から意味を推測したり、読み方を予想してタブレットで検索したりしながら発表に向けて準備をした。慣れてくるとお気に入りの新聞ができたり、自分の中で発表のテーマが決まってきたり、テレビのニュースで聞いてもっと知りたくなったことについて記事を探したりと、個人で発表の準備ができるようになってきた。また、発表がわかりやすいと周りから質問や感想が多く出るため、それをモチベーションに記事を読み込んでスピーチに備える児童も出てきた。



『はなちゃんのみそ汁』の安武はなさんの現在取材した記事を選んだ児童の発表では、絵本を知らない児童もいた。そこで学級の「読み聞かせグループ」の児童が図書館で絵本を見つけて来て、紹介してくれた。そのおかげで、「このはなちゃんが、こうなったのか」とクラスで驚きを共有することができた。友だちのスピーチを分かろうとして聞く姿が増えてきたこと、サポートしようとする児童が出てきたことも、この活動の成果だと感じる。



○大分合同新聞社印刷センター見学

10月20日に見学遠足で、大分合同新聞社印刷センターへ行った。これまで少しずつ新聞に触れていたことで子どもたちの中に「毎日どうやってこんなに記事を集めているの?」「この大きさをどうやって印刷しているの?」「どうすれば吹き出しバトルで選ばれるの?」といった疑問が生まれていた。今回の見学で新聞社の方に質問し、解決することができたため満足気だった。また、詳しい映像を見たり、印刷センターの中を見て回ったりできたことで、新聞の制作に関わっている方の思いや工夫、努力を詳しく知り、興味が増した様子も見られた。

<児童の感想>

- ・正しい記事を素早く読者へ届けるためにたくさんの人が力を合わせていることが分かった。

- ・4色のインクを使って、点の大きさを変えて写真を印刷していることにびっくりした。アルミの板が不思議だった。

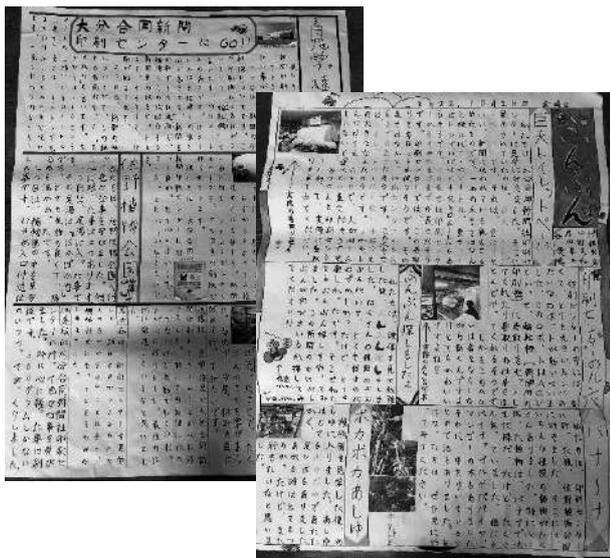


○見学遠足新聞づくり

大分合同新聞社印刷センター見学後、佐野植物公園へ行き、班ごとに、佐野清掃センターで発生するゴミ焼却余熱が利用されている「観賞温室」や「ぼかぼか池」を取材した。見学遠足の次の日から1週間ほどかけて、班で、学んだことを模造紙1枚の新聞にまとめた。

昨年度も、総合で調べたことを新聞にま

とめた経験はあるが、今回は「記事に興味を持ってもらうためにはどんな見出しにすればよいか」「トップにどの記事を持ってくるか」「読む人にとってわかりやすい作りになっているか」など、印刷センターの見学で学んだ視点を活かして考えを出し合っていた。完成したものは階段の壁に掲示し、お互いに見合うとともに、他学年の先生や児童にも見てもらった。



○おおいた切り抜き新聞グランプリ

3学期が始まってすぐ、「おおいた切り抜き新聞グランプリ」参加に向けて取り組みを開始した。最初の1時間は体育館で新聞を広げ、気になった記事や広告をどんどん切り抜いた。2時間目は切り抜く中で見えてきたテーマに沿って教室や集会室で記事を集め、3～5時間目にレイアウト決めや貼り付け、台紙に書き込みを行った。ウクライナ情勢や物価の上昇、子どもの貧困といった社会の中で関心のある記事を集めたものから、将棋の結果や4コマ漫画、美味しそうな写真といった好きなもの大集合というもので、幅広い作品が出来上がった。自由度が高かったため、テーマが決まるまで戸惑う姿も見られたが、たくさんの新聞を見る中で方向性が見えて来て、3時間目

辺りから「もっとこんな記事がほしい」など、多くの児童が自分から進んで活動していた。文を書くことが苦手な児童も、記事自体にマーカーで線を引いたり貼り付けのレイアウトを工夫したりすることで、大きな負担なく世界に1つの新聞を作り上げることができて、満足感があつた。



3. まとめ

経験のある先生からたくさん紹介してもらいながら、今年度は5年生を中心に実践を行った。元々長文読解が苦手な児童が多く、新聞に親しむことを第一に、無理なく楽しみながら取り組める活動を多く仕組んだ。新聞を通して世の中で「今」起っていることを知り、意見を交流する中で自分なりの考えを持つことができたのは、社会に向けて視野を広げていく高学年にとって良い経験になった。

記事を読んで内容を理解し、それを伝えるというのはなかなか難しかった。子ども新聞などを使い、下学年から慣れていくと、より深い意見交流ができるのではないかと思う。

自分の考えを持ち、伝えあえる子どもの育成を目指して ～新聞活用を通して～

佐伯市立八幡小学校 教諭 川野 弥生

1. はじめに

本校の教育目標は、「確かな学力と豊かな心を身につけ、何事にも自ら考え行動できる児童の育成」である。それを受け、「主体的に学び、自分の考えを持ち、伝え合える子どもの育成」をテーマに掲げ、研究を深めている。また、昨年度NIEの実践指定を受け、新聞を利用して子どもたちの思考を広げ表現する活動を通して、社会や地域についての理解を深めていくことを目指して取組を進めてきた。以下に2年間の実践を紹介する。

2. 本年度の実践について

(1)NIE 理解を図るための教職員研修

初年度は教職員でNIEについて共通の認識を持った上で取り組めるように、校内研修に講師:佐藤由美子先生(日本新聞協会認定NIEアドバイザー)を招いて学習会を行った。学習内容を各自の人生や社会のあり方と結び付けて理解し、より良い社会をつくるために、主体的に考え行動する子どもの育成を目指していることを確認した。今年度の6月11日に本校の実践報告会に再度お招きしてこれまでの取組にご指導いただき、今後の方向性を確認した。



(2)新聞に親しむための環境整備

①NIE コーナーの設置

「大分合同新聞、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、西日本新聞、日本経済新聞」の内3紙を児童玄関に掲示し、日常的に新聞に触れ、閲覧できるようにした。

新聞会社によって1面のトップ記事の取り上げ方に違いがあることが子どもたちの目に留まるように意図的に掲示した。また、新聞をめくって閲覧できるように、テーブルの上に広げて置くようにした。すると休み時間に広げて読んでいる姿や、掲載された記事について友だちと話し合っている姿等を少しずつ見かけることができるようになってきた。



②広報委員会による発信

広報委員会の児童が社会や身近な地域のことや児童が興味を持ちそうな記事を選定し、その新聞記事についての意見や感想を書き、全校児童の目に触れる場所に掲示した。

新聞の定期購読を行っている家庭が半数以下という地域事情の中で、新聞を読むことに大きな抵抗を感じている児童は少なくない。そこで、広報委員会の児童が身近な社会的な新聞記事を提示し、その記事についての意見や感想を書いて、全校児童へ向けて発信して

いる。低学年児童も読むことができるように、漢字には読み仮名がふられている。子どもたちにとっては、自分の知っている上級生が書いているコメントには親しみを感じ、立ち止まって読んでいる子ども次第が増えてきた。2週間サイクルで新しい情報が掲示され、既に掲示されていたものは、子どもたちの通る階段の掲示スペースに移動させて貼ってあり、バックナンバーをいつでも見ることができるようにしている。



(3) 各学級による発信

低・高それぞれの部会で、付けたい力を見据え教育課程を見直した。そして、新聞活用を効果的に取り入れることができそうな単元の洗い出しを図った。

○1～3年『はっけん新聞』『野菜新聞』『まちたんけん新聞』（生活科・理科）

○4～6年『広報委員会の意見から考えたこと』『新聞記事を読んで意見文を書く』『歴史新聞』（国語・社会・特活）

(4) 児童が社会に興味を持ち主体的に関わろうとする意識を育てるための新聞活用

① 日常的な取組

【新聞ワークシート】

毎週金曜日に週末課題として取り組ませ、翌月曜日の朝学習の時間に答え合わせをする。ワークシートは「読売新聞社」と「大分合同新聞社」のものを使用している。社会的話題に触れ新聞を読み解く力を身に付けさせることを目的とした活動である。問題を解くときには、情報の取り出し作業として、大切な文に線を引くなどの作業をするように指導し、また、答え合

わせだけでなく、記事を読んだ感想を友だちと交流する場も設けている。



【朝のスピーチ】

日直が『朝の会』の時間等に、自分が選んだ新聞記事についての感想などを発表する。自分の考えを伝える楽しさを味わわせ、同時に表現力の育成を図ることを目的とした活動である。

1・2年生は広報委員が記事の概略や感想を書いた掲示物を見て、スピーチ原稿を作成し、3年生以上は、通常の新報を使用して、スピーチ原稿を作成する。スピーチ原稿のものは全校で統一されており、学級において工夫を加えたものもある。原稿は、「いつ・どこで」「写真の様子を」「記事の感想」「感想の理由を新聞記事から」「これからのこと・自分と重ねて考えたこと」の5項目で書くように構成されている。

【広報新聞への感想】

全校児童が、広報委員が作成した記事を見て、気づいたことや感じたことを付箋に書いて貼っている。基本的には休み時間に自主的に書きますが、担任が意図的に時間をつくり学級全員に書かせる時もあります。児童に能動的な学びを広げていくためには、双方向のやり取りが必要なのではないかと考え始めた。



(5) 系統的なつきたい力

「つきたい力」の系統性を明確にし、教師が意識して取り組ませていきたいと考え、学習指導要領国語科における知識・技能及び思考・判断・表現のどの指導事項に該当しているのかとの関連を表にまとめた。知識及び技能における情報の扱い方に関する事項、「読むこと」における指導事項を表している。

3. 授業実践

(1) 第6学年 社会科 7時間扱い

昨年度実施

単元名 『戦争と人々の暮らし』

○学習活動

修学旅行で訪問した建物の写真や新聞記事を用いて、戦争の被害の様子を調べ、学習問題を作り、学習計画を立てることができる。

○NIEの活用

教師が用意した新聞記事に書かれてある戦争体験者の投書を用いて、自分たちの住む大分県での空襲の様子から、戦況に苦戦した要因やこのような戦争が起こってしまった背景等、今後の授業で知りたいことや調べたいことをまとめる活動を通して、戦時体制中の人々の様子についての関心を高めさせる。

○本時のねらい

戦争体験者の新聞の投書から、当時の戦争と人々の暮らしの様子を調べ、学習問題を作り、学習に見通しを持つことができる。

○授業の展開（1/7時間）

1. 前時までの復習を通して、「日本は国際社会の中で重要な位置にいることと日清戦争・日露戦争に勝っている」ことを確認する。
2. 本時のめあてを知り、修学旅行で学んだことを確認する。
3. 新聞記事からわかったことと、これから調べたいことを付箋にまとめ、KJ法を用いて班や全体で交流する。

4. 学級で扱う学習問題をロイロノートとGoogle フォームを用いて、自分が調べたい学習問題を投票し、その結果を全体で交流する。

5. 本時の振り返りを行う。

○NIEについての振り返り

教師が選定した記事が地元のことを取りあげていたものなので、子どもたちの興味や関心を引き付け、学習課題をより自分事として捉えることができていた。

「自分の考えを持つ場面」では、新聞記事から知りたいことやさらに詳しく調べたいことについて各々が意欲的に記述していたことからNIEは有効であったと考えられる。その理由として日頃から新聞を読み、スピーチ原稿を作成していることで、要約する活動に慣れていたことが考えられる。また、「班で考えを交流する場面」では、各自の考えを班で考察して適切な見出しをつけることができていた。その活動の際、まとめた内容を言葉で説明することなく、付箋を貼って、交流することにとどまっていた。話し合い活動の交流の在り方についての研究は今後の課題である。



(2) 第4学年 国語科 10時間扱い

単元名 『身の回りの便利について調べて分かったことを伝えよう～海崎駅に隠れる便利を調べて発表しよう～』

○学習活動

3種類の新聞記事を読み、「便利とはどのようなものか」について話し合う。

○NIE の活用

新聞記事「古くて新しい金属鉛筆」「ドアオープナー」「ヒーロークリップ」について、2つの視点を知らせ、内容の読み取りを前時に行わせる。本時では、各自読み取ったことをもとに、3つの資料の共通点を考え、括弧の抜き言葉を探す活動を通して、便利とはどのようなことなのかを捉えさせる。

○本時のねらい

「便利」とはどういうものかについて、3つの新聞記事から、「どんな人にとってどのような便利さがあるのか。」に着目して、取り出した事柄を基に話し合うことで、情報を分類しながら追究することができる。

○授業の展開（1/10時間）

1. 「便利」についての関心を持たせ、本時のめあてを知り、活動の見通しを持つ。
2. 事前に読んでいる3つの新聞記事に対する各自の意見を基に「便利とはどういうことか。」という本時の課題をつかむ。
3. グループや全体で交流する。
4. 本時の振り返りを行う。

○NIE についての振り返り

「自分の考えを持つ場面」では、児童は各自の考えを持つことができていた。理由として、新聞記事から必要な情報を取り出す学習方法が理解できていたことと、児童が活動をする目的を自覚していたことが考えられる。日頃から、帰りのスピーチでは、新聞記事を通して気付いたことや考えたことを発表しているので、必要な情報の取り出し方や取り出した情報のまとめ方の具体的な方法を理解していた。そのため、本時においても学習課題を引き受け、便利の定義について捉えることができていたと考えられる。「考えを交流する場面」では、各自の考えの根拠を言葉で伝えず、付箋を貼って伝える活動で終わっているグループが多くあった。互いの考えの相

違を明確にしていなかったため、話し合いの視点が曖昧になったためと考えられる。教師自身が子どもたちにどのような思考をさせどのような話し合いをさせたのかを想定して、話し合い活動を仕組んでいくことが必要であった。



4. 意識調査アンケート

成果と課題		
児童意識調査		
	R2年度末	R4年度2学期末
「勉強ができるようになった」	88%	95%
「自分の考えをまとめたり、発表したりすることができた」	69%	80%
「友だちの発表をしっかりと聞いている」	90%	94%

新聞活用に対するアンケートを取り、意識調査を行った。学年が上がるにつれ、好きと答える児童が減る傾向を示している。このことから、このような活動は早い段階から取り組んでおく方が抵抗なく取り組める。本校のNIEの取組は、新聞を読んだり、感じたことを書いたり、伝え合ったりすることを中心に行っているため、子どもにとって必ずしも楽しいことばかりでは無いが、力をつけてきていると児童自身が自覚していることは確かである。

5. おわりに

児童が社会事象を多面的に捉え、主体的に関わろうとする態度を育てるため、本校の実践内容について全教職員で共通理解を図り、よりよいNIEの在り方を探っていきたいと思う。

令和4年度 NIE 実践報告

別府市立中部中学校 校長 佐藤 裕一

1、はじめに

NIEの実践として、「学校運営への新聞活用」と「総合的な学習の時間（別府学）の活用」「図書館での活用」の3つの点から取り組むこととした。

1点目は、教育目標「夢をもち、自ら学び続ける生徒の育成」を達成するための学校運営のツールとして「新聞」を活用すること。2点目は「総合的な学習の時間」において子どもたちの深い学びに繋げるために活用すること。3点目は生徒の「言語活動の充実」のため図書館で新聞を活用すること。である。

2、実践内容

(1) 学校運営への新聞活用～新聞を活用する～

①新聞を活用した学校の取組の共有

本校では年間通じて学校教育目標達成に効果があり、話題性のある取組を実施している。その時に新聞社に取材依頼をし、紙面を通して地域や保護者へ学校の取組を知らせる。つまり、記事を通じて学校の取組を地域と共有するとともに学校への理解や協力を得る場としている。また、本校が取り上げられた新聞記事を、学校運営協議会の熟議資料として活用し、学校運営に生かしている。

(下は取り上げられた新聞記事である。)



②学校運営協議会の熟議に新聞記事を活用

学校運営協議会では、昨年からの熟議(意見交換)の時間を取り入れた。その熟議の資料としたのが新聞記事である。記者の方がプロの目線から、また、客観的な立場から学校の取組を書いた記事を熟議の資料として活用した。下は熟議の様子である。

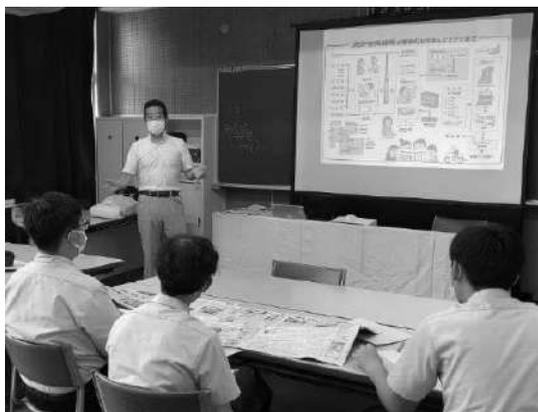


また、下は、地域連携にかかる取り組みで、令和4年度の文部科学大臣表彰を本校が受けた記事と地域とのつながりにかかる記事である。この記事を目安にして、生徒と学校運営協議会の委員で「中部中の子どもたちが地域とともに歩むために」というテーマで意見交換を行った。



③中部中ドリームスクール新聞記者の講座実施
～新聞を製作する・新聞の機能を学ぶ～

中部中ドリームスクールとは「地域の先生の授業」の総称である。本校では「社会に開かれた教育課程」を実現するために、年間を通じ「夢」をテーマに 97 名の地域の先生の授業を展開している。その中で、大分合同新聞社記者の方に「新聞づくり講座」や「記者の仕事」をテーマに講演していただく。それにより新聞への興味の喚起。また、将来の職業としてのマスコミ関係への理解を深めた。また、本年度7月8日の3年生ドリームスクールでは、16人の先生を招いて小グループの講座を行った。講師として、大分合同新聞社地域連携室長の三股秀明さんをお迎えし、新聞社の使命ややりがいについてお話しいただいた。生徒は、新聞を前に真剣なまなざしで聞いていた。

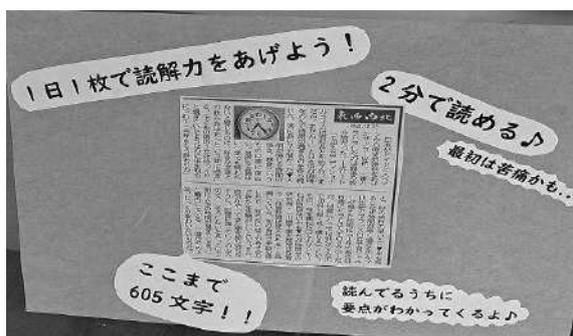


(2) 総合的な学習の時間「別府学」の新聞活用
～新聞を活用する～

総合的な学習の時間で組織的に新聞を活用する。N I E の日常化に向けて新聞は常に先生が目に触れる職員室前に整理しおいている。また、1週間過ぎた新聞も先生方がいつでも活用できるように保管場所を明確にしておく。また、総合的な学習の時間において N I E の取り組みを計画的に、また、学年組織として取り組む。

(3) 図書館での新聞活用～言語活動の充実～
言語活動の充実に向け、生徒が活字に親しめるように新聞の社説を活用する。図書館司書が国語科と連携して、生徒に新聞に親しめるように工夫をした。今話題の出来事と社説をつなげて紹介したり、社説だけが読めるようなコーナーをつくったり、と工夫した。おかげで昼休みは社説を読む生徒が増えてきた。

図書館の社説を読ませる工夫



昼休みに新聞を読む生徒



また、地域連携の一環として、本校では地域の方の読み聞かせを行っているが、その折に本ではなく社説や、新聞への投稿記事を読んでもらい、言語活動の充実をめざす。

NIEに親しみ、学び、楽しむ生徒の育成

～全校挙げての取り組みを通して～

竹田市立竹田南部中学校 教諭 佐藤 美登里

1. はじめに

本校の学校教育目標は「豊かな人間性を持ち、たくましく未来を切り拓く生徒の育成」である。その目標達成のための重点の一つに「NIEの推進」を掲げている。NIEへの理解の深かった管理職をはじめとする教職員が多かったこともあり、実践指定校となることを好機と捉えた。生徒の実態や状況を踏まえ、効果的かつ持続的な取り組みになるよう、全教職員で実践を進めてきた。

2. 実践内容

(1) 「新聞のある学校」づくり

①教師の意思統一

- ・年度当初の運営委員会や職員会議で、NIEの価値や手法について確認した。竹田市教育委員会のリードで、市内6中学校でコラム学習に取り組んで3年経つこと、教師の多くがその意義を体感していること、工夫をしながら継続していること、等々も説明し協議した。
- ・国語科で生徒にレディネスアンケートを実施した。家庭での新聞購読率や興味関心、読書の傾向、メディアやゲームとの接触等の項での集約結果を職員会議で紹介し、課題意識を共有した。それらも踏まえ、NIEで育むべき力についても検討した。

②環境整備

- ・職員室入り口や通路壁面に「NIEコーナー」を設置。「新聞一面読み比べ」「注目記事」「人権・平和」等のスペースを整え、毎日更新している。
- ・管理職や以前から勤務している教師が折々に、新聞の切り抜きを学年部の掲示板に張り出したり、関連する書籍を紹介したりしている。
- ・いつでも誰でも新聞を読める「立ち読み場」を9月より常設している。



←☆手前は「立ち読み場」。気になる記事があれば、誰でも無断で切り抜いてもよい。隣には「新聞一面読み比べ」等の掲示コーナーと「朝NIE」置き場がある。職員室東入り口を挟んだ奥には、前日までの新聞1週間分の置き場と「すいすいスクラップ」専用置き場がある。

☆竹田南部中学校や生徒が取りあげられた新聞記事をコメント付きで掲示。全国レベルの表彰も小さな記事も同じ扱い。校内6ヶ所にある。 →



☆国語科で韻文の学習をした際、愛好家が多い証として、文芸欄を取り上げた。↑奥に並ぶのは、1年生の「すいすいスクラップ」掲示コーナー。

(2) 全校「朝NIE！」

①目的

優れた文章や表現に出会い、思考を深め、感性を磨き、表現力を身につける。

《1年生・2年生》前期…新聞コラムの書き写しをすることで、言語感覚を磨く。

後期…3年生と同様の取り組みで、読解力の基礎基本の力をつける。

《3年生》短く秀逸な文章である新聞のコラムを読み、思考を深め、考えたことを表現することを継続し、時事力や読解力、判断力や表現力を身につける。

②方法

- ・前期、1年生と2年生は毎週木曜日、3年生は月～木曜日の週4回、それぞれ朝自習の20分間で行う。1・2年生は後期、「すいすいスクラップ」に取り組む。
- ・ワークシート（「朝NIE！」）は複数の新聞のコラムを取り上げ、手作りする。適宜、コラム以外の新聞記事も利用して作成する。
- ・学年部職員全員で必要な支援やコメント入れを適宜、する。

③効果

- ・15分間、目的意識をもって臨み、読み書きのために大切な姿勢を維持することや、合理的な筆記用具の使い方にも慣れる。
- ・週4回行うことで、生徒が自身の成長や取り組みの様子をメタ認知できる。
- ・新聞記事に触れることで視野や知見を拓けることにつながる。
- ・テストでの記述問題の無解答率は極めて低くなり、記述に対する苦手意識が確実に小さくなる。



☆左は、「朝NIE」初日の1年生。「想定外の集中！」「驚きました！」と教師から嬉しい悲鳴。右は3年生。姿勢が徐々に理想形に。これも「継続は力なり」の証明。



↑☆文化祭の展示係。ファイルを並べながら読みふけり、感想交流も。



↑☆学年PTAでも展示。

↑☆「NIEファイル」へのコメント入れは、全教職員で。人により、コメントの仕方に特徴があるのも面白い。どんな言葉が書かれているのか、生徒も楽しみにしている。

(3) 国語科の取り組み

①2年「気になる『職業新聞』」

5月の教科書教材「多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る」では、クラスで一冊の職業ガイドブックをまとめ、感想を交流する学習



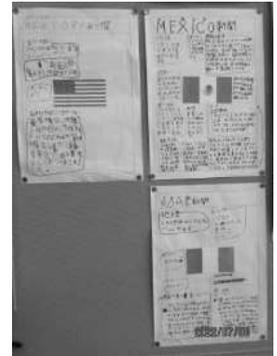
活動が組まれている。その中で示されている紙面作成のポイントを新聞作成にそのまま生かし、自分の気になる職業についてタブレットや図書で調べたり、身近な人にインタビューしたりして考え

たことを新聞として完成させた。さらに、期末PTAの授業参観で「職業新聞」を各自がパワポにアレンジしたものを交流した。ロイロノートを使って発表したり、質疑応答をしたりする学習活動で保護者の笑顔と感動の声も広がる、温かい時間となった。廊下に掲示した「職業新聞」に改めて見入ったり、感想を伝え合ったりする姿も多くあった。



②1年特別支援学級『朝のリレー』に出てきた国の新聞を作ろう！

在籍する1年生3名を対象に、4月の教科書教材「朝のリレー」の発展学習として位置付けた。本文に出てくる国名や都市名のうち、一人が一つずつ選んで新聞に調えることを提起した。調べ学習や新聞作成をすることへの抵抗は最初、とても大きかったけれど、タブレットでの調べ方や、材料のメモの仕方、書く時の注意点等を学ぶうち、徐々に楽しさを感じるようになり、生徒同士の会話の質も上がっていった。仕上げた作品を褒められることで達成感も味わえる取り組みであった。



なお、2学期から「すいすいスクラップ」の取り組みが始まったこともあり、国語の授業の中で丁寧なシミュレーションを重ねた。面白さを自覚した3人は秋のうちに、級友と同じ15分間で全て仕上げることができるようになり、大きな自信をつけている。

③全学年での新聞関連のコンクールへの出品

有益なコンクールに出品することを全校生徒に薦めようと、国語の授業や国語通信で紹介し、授業でも取り組んだ。本年度はなんと、「新聞配達に関するエッセーコンテスト」で1年の原田さんが全国入選、「いっしょに読もう！新聞コンクール」で2年の野原さんが全国での奨励賞、3年生の工藤さんが県入賞、という快挙が続き、大分合同新聞でも大きな記事として取り上げられ、全校生徒への良い刺激にもなった。

④新聞出前授業

11月21日、大分合同新聞の佐藤良昭さんが、全校生徒122名を対象に、新聞の読み方の講話と「切り抜き新聞グランプリ」のワークショップをしてくださった。生徒にも好評で、感想にも嬉しいコメントが沢山あった。感動した校長が、学校新聞を臨時に発行するほどの良い時間だった。

☆当日の写真と全校生徒のコメント。→

(4) 防災教育

①2年・3年「十年前の今日～あの日のこと～」

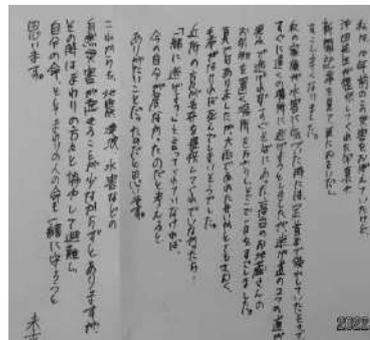
自習時間を活用して、2012年7月12日の竹田水害を報道した大分合同新聞（実物）と、自宅が被災した本校教師の撮った写真を讀んだり見たり、生徒同士で感想を交流したりして思ったことを短作



文にして掲示し、読み合った。当時、幼児であった生徒達の言葉に私自身が鳥肌の立つ思いをした。古い新聞の衰えないパワーや写真の力を再認識した。



☆被災や避難の記憶の残る子どももいるので、一人一人に事前に声掛けや確認も。 →



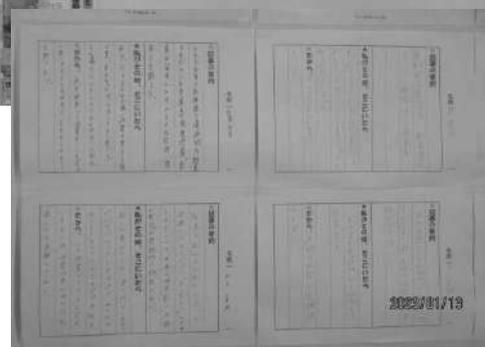
☆この掲示コーナーの前では、生徒と教職員だけでなく、来客も足を止め、語り合っていた。

②2年1組「1・17 阪神淡路大震災」

一時間扱いで、阪神淡路大震災のことを知り、考えさせた。28年前の1月18日から一週間、大分合同新聞に掲載された新聞記事を読み、記事を要約させたうえで、「私がその時、そこにいたら」「修学旅行で心しておくこと」について考え、交流させた。修学旅行前でもあり、非常口や避難経路の確認、声を掛け合う等、大切なことの押さえにもなった。



☆生徒の感想には、避難ルートを必ず確認し、備えようとする言葉が並んだ。修学旅行をより安心・安全に楽しむことも再認識できた。



なお、3月11日頃、東日本大震災についても、新聞記事を中心にした学習を予定している。

3. 振り返り

- ・本校が NIE 実践指定校となるのは初めてであったが、管理職はじめ、教職員が一丸となって取り組みを進めた。さらに、生徒の素直さや感性の豊かさに支えられて有意義な学習活動が重ねられた。道徳や平和学習、環境学習等でも多くの教師が適宜、新聞記事を活用している。この流れを、生徒の今後のためにも良い形で継続したい。
- ・生徒への NIE アンケートの回答を集計したところ、肯定的評価は「NIE が好きだ」45.5%、「読解力が向上した」85.4%、「表現力が向上した」83.7%であった。理由の記述には「難しい内容も多いけれど、特にテストや作文で、以前の自分に比べて、とても力がついたらと何度も実感した。」「新聞は大切だと、本当によくわかった。」等の嬉しい言葉が沢山並んでいた。近日中に、職員会議で生徒の声からの検証を進め、生徒が「たくましく未来を切り拓く」力をつけられるよう、指導や支援を重ねたい。

「社会と自分たちの関わりについて共に学び合おう」

～新聞の切り抜きポスターを通して～

日田市立前津江中学校 教諭 梅田 由紀夫

1. はじめに

本校は全校生徒数9名の極小規模校である。学校教育目標は、「ふるさとに誇りを持ち、主体的に関わり、学び、行動できる生徒の育成」であり、その目標達成のための方策の一つとして、今年度よりNIEの取組をすすめることになった。本校のNIEの取組の基本方針は、以下のとおりである。



◎新聞を読むことを通して、世界に存在する様々な課題と自分たちの生活の中にある身近な課題との関わりについて考察したり、ポスターセッション（伝えたいことを一枚のポスターにまとめ、それを踏まえて対面で発表を行う形式）を導入した実践発表をしたりすることで、NIEの取組で期待されている次の①～④の力の育成及び発表者と参加者の交流タイムの活性化を目指す。

- ①地域や国内、世界の出来事に対する興味・関心（社会に目を向け、考える力）
- ②多様な文章や資料を読み解く力
- ③信頼できる情報を取捨選択できる力
- ④表現力・説明力

2. 学校としての取組

(1)新聞に親しむ活動

○教室前廊下に新聞コーナーを設置し、新聞を読む習慣づくりに取り組んだ。しかし、自ら進んで読む生徒は少なく、朝の会や帰りの会の時間帯に「印象に残った新聞記事」を発表させる活動を取り入れることによって、読む機会を意図的につくっているというのが現状である。時間をかけて読みたいという生徒もいたが、そのための時間を確保できずにい

る。

(2)新聞を活用した取組

①各教科等での取組事例

A. 社会「世界人権デー（12月10日）に関する国内行事を調べよう。」3年

○12月10、11日付の新聞の中から、人権デーに関する記事を探した。どの新聞にも関連記事はなかったので、人権に関わる国内記事を切り抜くことにした。生徒は、広用紙1枚に切り抜いた記事と感想等を書いた紙を張り付け、下級生からも意見を求めた。その内容は、人権デーに関する国民の関心の低さと国内に存在する人権問題について心配するものであった。下級生の意見の中には、自分の体験を含めて書いた生徒もあり、問題提起をした3年生にとっては達成感を得られた取組となった。

B. 国語「感想や意見を書こう。」全学年

○新聞のコラム欄や読者投稿欄の文章をもとに下記の点について取り組ませた。

1. タイトルを隠して、ヒントを与え、考えさせる。
2. 使用されている重要な漢字を習得させる。
3. 使用されている語句の意味を辞書で調べさせる。

4. 感想や意見を書かせ、国語の授業で取り上げて議論させる。

C. 理科「課題を見つけて探求しよう。」

3年生

○「生物のつながり」というテーマに沿って課題を設定し、新聞記事から必要な情報を集めた。新聞記事以外にも、図書室の本やインターネットから情報を集め、ポスターにまとめた。

D. 特別活動

「新聞6紙一面の読み比べをして、感想を出し合おう。」全学年

NIE実践の資料として3紙（12月の1か月間は6紙）を提供していただいている。8月に開催された懇談会の際に、「ぜひ一面の読み比べを」というアドバイスもあったので、6紙が提供された12月に読み比べを行った。



1年生は読み取りが浅く、紙面の違いに気付かないようであったが、2、3年生の中には、取り上げられた記事や伝え方に違いがあることに気付けた生徒もいた。

生徒感想文 12月23日の新聞の読み比べ（6紙：地方紙2、全国紙4）をした感想

6社の新聞の一面の記事を読み比べてみました。まず、地方新聞の2社では地方新聞ならではの限定された地域の記事が必ず1つはありました。全国新聞の4社で今日は、原発

施設のことが共通して書いていました。この記事の内容については、A新聞が一番詳しく他の3社もほとんど内容は同じだったのですが、B新聞では、「安全性を最優先にしている」と少し政治よりの反面、C新聞では、「福島事故後の原子力規制のルールが形骸化する」というようにB新聞とは逆の視点からこの出来事を見ていました。

このように、同じ出来事でもいろいろな見方があるって、それは捉える人によって異なることがわかり、1つの見方だけにとらわれないようにしたいと思いました。

E. 特別活動

「新聞を通して、自分探しをしよう。」

2、3年生

生徒には、趣旨を伝えずに10日分の新聞の切り抜き（1日に1記事）に取り組みさせた。切り抜いた記事は広用紙に貼り付けさせ、記事を再読させることにより、なぜその記事を選んだのかを振り返らせた。

生徒の中には、選んだ記事の関連性、類似性の中から、今の自分がどんなことに興味・関心を持っているかを再認識した生徒もいた。

生徒感想文 10日間、新聞の切り抜きをして見えてきたこと

●私は10日間、その日一番気になった記事を集めることによって、自分自身が新聞を読むときに無意識に関心を持っていた記事がどんな出来事かを改めて知ることができて、自分のことを知るきっかけとなりました。3年●私は10日分の新聞で気になった記事を集めてみると、外国のことや日本の政治のことなどよりも、それぞれの地域の魅力を引き出すために各地でどんなことが行われているかなどの記事に興味があると初めて知ることができた。その中でも、水族館のことについて

2つもあったので海の動物が好きなんだなと思った。2年

●私は10日分の記事を切り取ってみたら、海外で起こっている戦争や災害に対する記事が多くて、自分は国内で起こっていることより、海外で起こっていることに興味を持っていることがわかりました。2年

●10日分の新聞の切り抜きの中から、無意識の中にある関連性を探しました。必死に考えましたが、自分はその場の気分で決めることが多いので、関連性を見つけることができませんでした。2年

②教科等におけるNIEの活動を紹介する取組

A. 特別教室等の壁面に、各教科での取組を紹介するコーナーを設置した。作成資料に対する感想を他学年の生徒に求め、それを生かすことで、伝えたいことが伝わる資料作りにつながることを期待した。

B. 新聞の切り抜きを活用したポスターセッションを行う機会を設け、自己の課題考察の過程や結果を発表したり、NIEの取組により気づいたことや感じたことを交流したりする場とした。

3. 取組の成果と課題

(1)NIEの指定を受けた最大のメリットは、数種類の地方紙、全国紙を読み比べることができることである。当初はどの新聞を読んでも同じと捉えていた生徒たちであったが、しだいに、掲載されている記事（出来事）やその内容に違いがあることに気づきはじめ、各紙を比較読みすることや複数のメディアから情報を得ることの大切さを実感として受けとめる生徒が増えてきた。

(2)生徒間で、NIEの取組について話し合う

中で、生徒からは、「一つの出来事を複数の視点で見て、自分なりの考えを持てるようになりたい」とか、「自分の考えは、どの立場での考えなのかについても、確認していくことが必要」との考えも出されるようになってきた。

(3)本校では、「自分の考えを発表する際はその根拠を示す」ことを生徒の授業時の学習目標の一つとしてあげている。NIEの取組の浸透とともに、徐々にではあるが考えの根拠として新聞記事の内容をあげる生徒がみられるようになってきた。特に3年生は、社会科(公民)の学習内容が政治経済、人権、地方自治といった日々の出来事と重なるものが多く、教科書記述の具体的事例として新聞記事を取り上げ、自分の考えと比較したり、深めたりすることが多くなった。

(4)2学期の終業式の前に、NIEの取組に関する生徒アンケートを実施した。結果は以下(資料1参照)のとおりであるが、生徒のNIEの取組に対する理解と主体的な活動が少しずつではあるが増えてきていることがうかがえる結果となった。



(5)1月中旬にNIEの取組に関する教職員アンケートを実施した。結果は以下(資料2参照)のとおりであるが、生徒よりも厳しい評価の項目もある。そこには、「担当教科で継続

的な実践が難しかった」ことと「期待される力が、NIEの取組の成果として認識してよいか悩んだ」という背景があった。しかし、NIE実践のよさはすべての教職員で認識できているので、来年度については、教職員間の実践交流と、実践のための時間づくり・年間指導計画への位置づけを最優先課題として位置づけ、実践を進めていきたい。

資料1：NIE(教育に新聞を)の取組についてのアンケート R4年12月22日実施

(1)今年度のNIEの取組(学校で新聞を読んだり、切り貼りをしたりしたことなど)は自分のためになりましたか。

- ①とてもなった 4人
- ②なった 4人
- ③少しなった 1人
- ④ならなかった 0人

(2)NIEの取組で期待されている3つの力は、今年度の取組で向上したと思いますか。

*単位：人

期待される力	5	4	3	2	1
①多様な文章や資料を読み解く力がついた	2	5	1	0	1
②社会に目を向けるきっかけになった	5	2	2	0	0
③信頼できる情報を取捨選択できる力がついた	3	4	2	0	0

(3)新聞はどのくらいの頻度で読んでいますか。

- ①毎日読んでいる 0人
- ②ほぼ毎日読んでいる 6人
- ③あまり(1週間に2回程度)読んでいない 3人
- ④読んでいない 0人

(4)情報は主にどのように入手していますか。

(最も利用しているものを1、次が2、次が3) *単位：人

メディア	1番利用	2番目に利用	3番目に利用
新聞	0	2	5
テレビ	6	2	0
スマートフォン	2	3	1
ラジオ	0	0	1
誰かに聞く	1	2	2
その他	0	0	0

資料2：NIE(教育に新聞を)の取組についてのアンケート 全職員 R5年1月17日実施

(1)NIEの取組で期待されている3つの力の育成に、今年度のNIEの取組は貢献したと思いますか。(自分の教科の取組に限らず、生徒の様子全般から判断してください。)

*単位：人

期待される力	大いに貢献した	貢献した	貢献していない
①多様な文章や資料を読み解く力	1	2	3
②社会や世界の出来事に対する興味・関心	1	5	0
③信頼できる情報を取捨選択できる力	1	4	1

(2)来年度の取組について、実現したいものがありますか。複数選択可

- ①新聞を読むための時間を学校時に設定する。(毎日または週に数回)・・・4人
- ②新聞を活用(切り抜いたり、取り組みを発表したり)する時間を計画的に位置づける。
 - ①各教科で年間指導計画に・・・3人
 - ②各学年で総合的な学習の時間の年間指導計画に・・・3人
 - ③全校で特別活動の年間指導計画に・・・3人

新聞を開き、未来を拓く

～主体的に課題を発見して解決の方策を考えようとする生徒の育成～

大分県立大分舞鶴高等学校 教頭 中川 博至

1. はじめに

本校では、「舞鶴魂『生まれ、がんばれ、ねばれ、おしきれ』を体現する」を学校教育目標として、「探究に向けた強固な学びの基盤」「自ら問いを立てて、探究する力」や「何事にも粘り強く取り組む態度」といった各資質・能力を生徒に育成するよう教育活動を行っている。

これらの資質・能力を育成するうえでは、学校生活の様々な場面で適切に状況を把握し、最善の方法について生徒自ら考え実践するようその機会を効果的に仕組むことが必要である。また、激変するこれからの時代に即応した力、実社会で生きて働く力を生徒一人一人に育成するには、実社会とのつながりを意識した学びが求められる。

その点で、NIE は本校がこれまで重視してきたものであり、今後一層の工夫と充実が求められるものである。

2. 実践の目標

先述の本校の学校教育目標及び今年度の重点目標の一つである「生徒の課題発見・解決能力の向上」を踏まえ、実践テーマを次の通りとした。本校のグランドデザインにも「教養を磨きキラリと光る特性の伸ばす取り組みの推進」の一つとしてNIE 実践指定校であることを明示し、「新聞・図書を活用による幅広い教養や奥深い専門性の育成」を掲げている。

実践テーマ

新聞を開き、未来を拓く～新聞を通して社会を知り、主体的に課題を発見して解決の方策を考えようとする生徒の育成を図る～

このテーマに基づいた各取組によって、次に掲げるNIE の目標の実現を図る。

NIE の目標

- ・ 実社会での諸事象や諸課題について考察するために必要な知識を身に付ける。
(知識及び技能)
- ・ 多角的、複合的に事象を捉え、主体的に課題を発見して解決方策を考え、表現する力を身に付ける。
(思考力、判断力、表現力等)
- ・ 課題解決や新たな価値の創造に積極的に挑み、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

3. 実践計画・実践状況

(1) NIE コーナーの設置

① 3年生共用スペースに設置した新聞ラック

3年生の教室が並ぶ4F 共用スペースに新聞ラックを設置している。古いものはストックし、入試対策時期には小論文作成や面接準備に使用する生徒の姿がみられる。



②「一面読み比べ」の取組

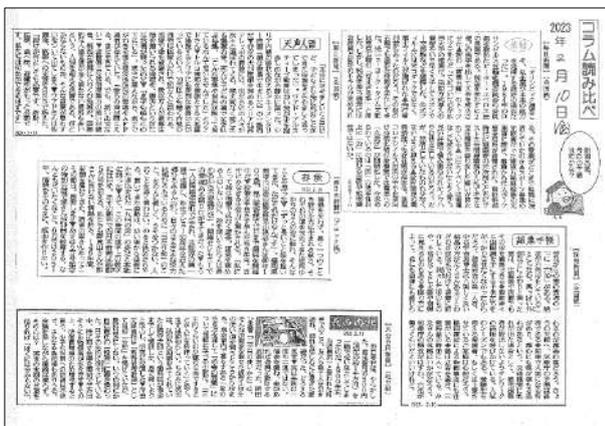
管理・普通教室棟中央階段の1階と2階の踊り場壁面に、平日の朝、全国紙4紙+地方紙2紙の一面を掲示している。本校芸術科の梶原敦美教諭が担当し、生徒の登校時間に合わせて掲示しており、社会情勢について概要を知るとともに、話題についての各社の取扱いの違いなど、広く知ることと違いを見つけることに有用である。足を止めて新聞に見入る生徒も多い。



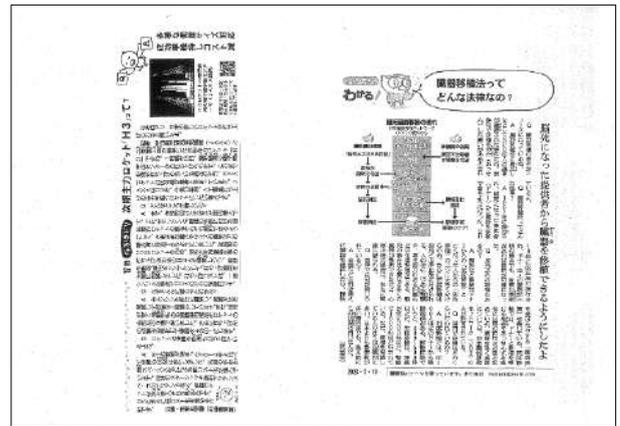
階段踊り場のNIEコーナー

③「コラム読み比べ」の取組

5紙のコラム欄を1枚のプリントにまとめ、このコーナーに設置している。裏面には時事問題の解説記事を掲載している。小論文対策として主に3年生が読むほか、朝礼までの時間のルーティンとして1、2年生も読んでいる。また職員室内で読んでいる教員も多い。



「コラム読み比べ」(表面)



「コラム読み比べ」(裏面)

(2)「新聞記事アーカイブ」の設置

学校図書館には、高校生として知っておきたい知識や識者の考えが整理された新聞記事がテーマごとにアーカイブされたコーナーが設けられている。生徒が広く社会に触れることのできるこのコーナーは、次の(3)に記載する探究活動で活用されるとともに、3年生の受験期の学習に大いに有用である。



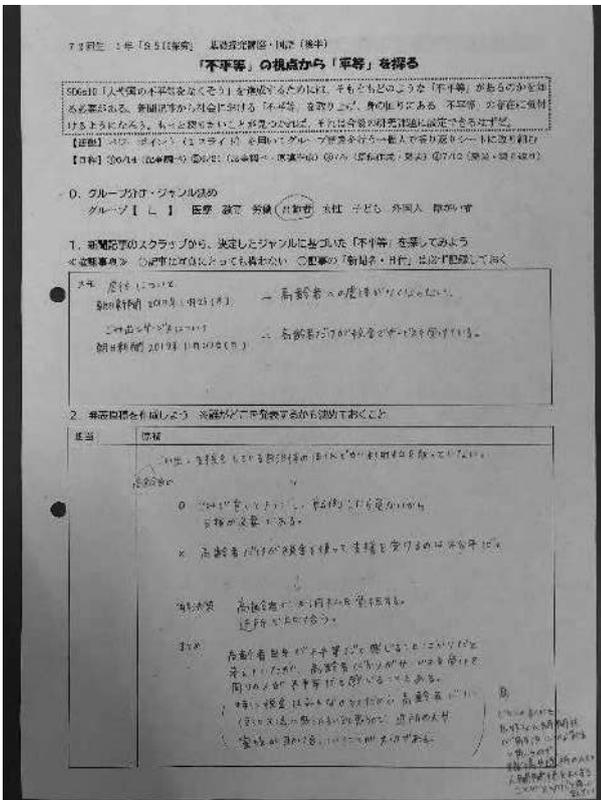
図書館の入り口にある「新聞記事アーカイブ」

(3) 新聞記事を活用した学習活動

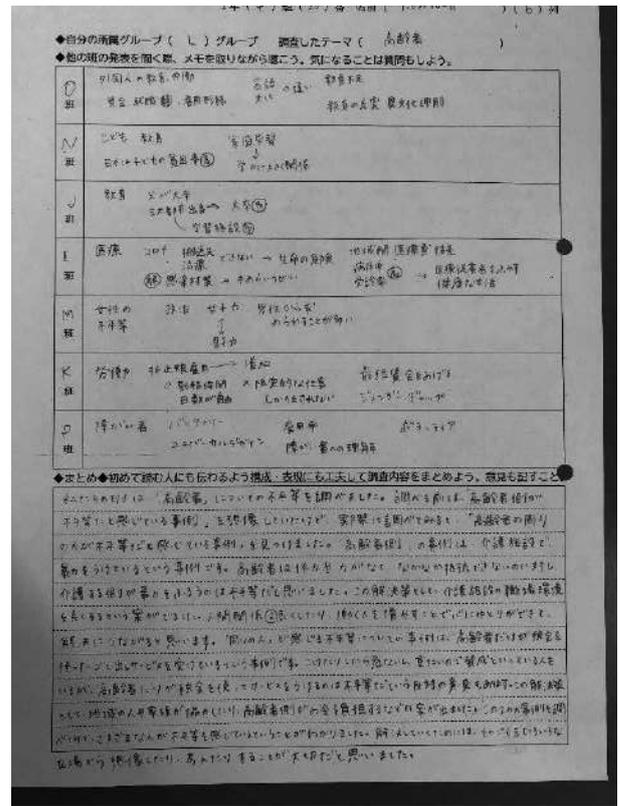
① 学校設定科目「SSH 探究」における探究課題

SSH 指定校である本校では、1 年生対象の学校設定科目として「SSH 探究」を開設している。この科目では、いくつかのテーマを生徒が自ら選択して、与えられたテーマに基づいて探究に取り組む。このうち、『『不平等』の視点から『平等』を探る』をテーマとした探究活動は、SDGs の目標 10「人や国の不平等をなくそう」の実現に向けて、実社会の中に見出される「不平等」を探り、その解消と「平等」の実現の方策を探ろうとするものである。

この活動では学校図書館に設置された「新聞記事アーカイブ」が利用されており、生徒は各社の記事から情報を収集し、分析してまとめ、他者に伝わるように発表原稿を作成して発表する学習活動を行っている。他のグループの発表時に使用された記事も参考にして考え、個人で考えを整理するというのが学習の流れである。



生徒が記入したワークシート（表面）



生徒が記入したワークシート（裏面）

② 「コラムで学ぼう」の取組

2 年文 I コースの国語科では、この「コラム読み比べ」を課題や授業で活用している。生徒が、コラムの中から興味を持ったものを自分で選び、内容の要約をしたり、感想を記述したりして、他者と意見交流するなど、読むこと、書くこと、話すこと・聞くことのできる力の育成を図る取組が行われている。また、現代的な用語について調べ、学ぶ機会ともなっている。



生徒の取り組んだ「コラムで学ぼう」

③「新聞記事を紹介しよう」

2年生では、上記(2)の「新聞記事アーカイブ」を活用したり、自分で興味・関心のある記事を家庭から持ってきたりして、印象に残る新聞記事の情報を整理したり、自分の考えを整理したりする学習に取り組んでいる。

生徒の選んでくる記事は先端技術に関するもの、社会課題に関するもの、スポーツに関するなど自分の進路選択の参考になるものが多い。また、人物に焦点を当てた記事を選ぶ者もあり、自分の生き方の指針としようとの感想を記載するものもある。

整理した内容をクラスで発表、交流する活動を通して、生徒はさらに広い分野、領域に触れることとなり、それまで気づかなかった自分の志向を意識する契機ともなるようである。自分の在り方、生き方を考える点で、キャリア教育の一環ともなる学習活動である。

4. 実践の振り返りと今後の展開

生徒にとって高校で学習する内容が、教室の中だけでいきるものであったり、高校3年間という限られた期間で意味を持つものであったりするのではなく、社会とのつながりを持って学習内容を捉え、社会で生きて働くものとして学習の意義を実感できることはとても重要なことであろう。

本校の学校教育目標は社会で生きて働く資質・能力の育成を目指しているのであり、NIEの目標もその延長にある。各教科の学びの中で社会とのつながりを考えるとき、そこに新聞があるのは自然なことであろうと思われる。今後も探究活動はもとより各教科の授業等においても新聞が効果的に活用され、生徒の日常に新聞を位置づけることができるような活動を計画的に組織的に仕組むことが必要であろう。



生き方を考えた記事とワークシート



感染症に関する記事とワークシート

新聞を通して考える 社会と自分

～社会の一員としての多様な力を育む方法を探る 2年目～

大分県立佐伯豊南高等学校 教諭 小坂 吏香

1. はじめに

本校は、食農ビジネス科・工業技術科・福祉科・総合学科の4学科を設置した総合選択制の高校である。例年、卒業後の進路は進学（4年制大学、短期大学、専門学校等）6割と就職4割。今年度の3年生（7期生）も同程度の割合で、進路を決定した。

これまで、「新聞活用を通し、高校生として、社会人基礎力（人間力）の育成を図り、世の中のことを知り、社会の一員として生きる自己実現をしていく、その一助となるよう実践を行いたい」として、昨年度より指定を頂き、実践を重ねてきた。どのような力が、どの程度育まれたのか、不明確な部分も多々あるが、今年度の取り組みを報告する。

【実践の目標】

- 1 新聞を通して、生徒の社会への関心、読解力、思考力、表現力を養成する。
- 2 生徒が新聞に親しむことで、進路目標の設定及び達成に役立たせ、社会の一員としてあるべき姿を模索する契機とする。
- 3 学年、複数教科、図書館等の連携の取れた組織体制を構築する。

2. 実践計画

通年	(1) 学年課題「コラムを読む」 (2) 選択科目「国表」「小論研究」他 (3) 他教科におけるNIE実践の集約
随時	・生徒の活動が載る新聞記事の掲示 ・「いっしょに読もう新聞コンクール」「切り抜き新聞コンテスト」等への応募 ・意見文の投書 など

3. 実践事例

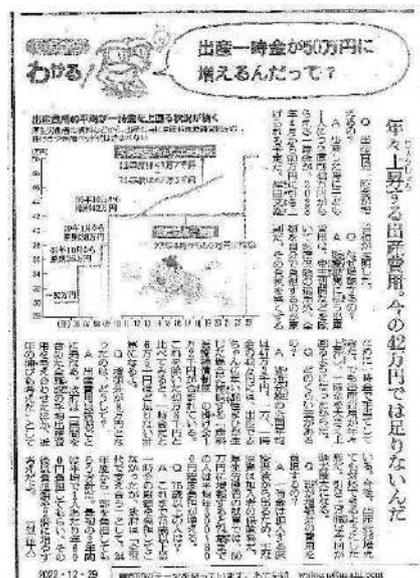
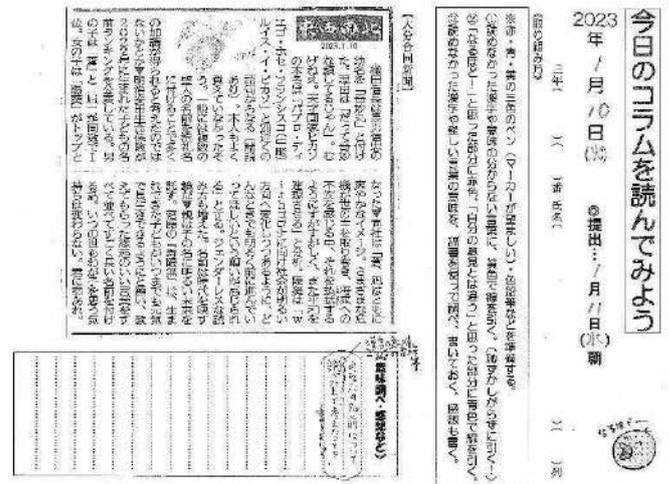
(1) 学年課題「コラムを読む」

〈目標〉

社会の諸問題を知るとともに、それらに対する自分の考えを持つ。

〈方法〉

平日1紙のコラム（話題や新聞社が偏らないように選択）を読み、感想を記入して提出。担任・副担任がコメントを記入し、返却する。今春卒業の7期生は、3年間継続した

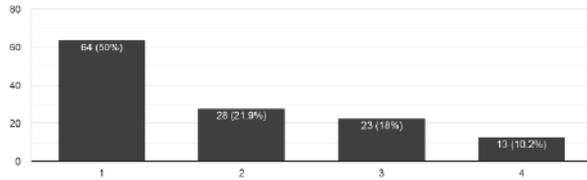


※感想欄には、「こちらから書くことを指定することもある。※裏面には、「いちからわかる！」（朝日新聞）を印刷。（可能な限り、関係のあるものを選ぶようにしている）

〈成果と課題〉

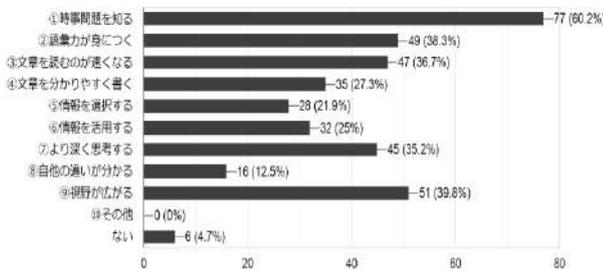
2学期末の学年アンケートでは

12 学年課題のコラムに毎日取り組み、時事問題について考えた。
128 件の回答



「学年課題のコラムに毎日取り組み、時事問題について考えた」に対する回答で、「1 あてはまる」「2 まああてはまる」の肯定的評価は、合計 71.9% (92 人)。

15 3年間、学年課題（新聞コラム）に取り組ん...すか。あてはまるものをすべて選んでください。
128 件の回答



「3年間、学年課題（新聞コラム）に取り組んできて、以前に比べてできるようになったと思うことは、何か（複数回答可）」に対し、「ない」4.7% (6 人) という回答も見られるものの、「語彙力」「速読力」だけでなく、「視野が広がる」39.8%「より深く思考する」35.2%等、力をつけられたという実感を多くの生徒が抱いていた。

3年間、担任の丁寧なコメント記入に助けられ、生徒のモチベーションは保持できたが、相変わらず「表面的」かつ「短絡的」な感想も散見された。取り組みの深度は、生徒個々の自主性に任せる状態であり、個人差が大きいため、十分な思考や視野の広がりには至らない生徒もいたことも事実である。

クラス全員で読む時間や、語彙だけでなく取り上げられている事柄についても調べる、さらにはお互いの意見を交流するといった機会ができるとよい。時間確保を工夫していきたい。また、当日の他紙ではどのようなコラムが書かれていたのか、伝達手段を講じていく必要もあるだろう。

(2) 授業（2・3 学年選択科目「国語表現」、3 学年選択科目「小論文研究」他）

〈全体目標〉

新聞に親しみ、その特徴を理解して、表現に役立てるとともに、多岐にわたる情報を収集、整理する。また、根拠を持って考えを書くことを通して、意見を論理的に述べる能力を身につける。さらに、他の意見を尊重する態度を身につける。

実践事例1 『『ひと』～10年後の自分』

〈実施クラス〉 3 年国語表現

〈目標〉

- ①実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

〈学習活動〉

- ①自分の進路に関わる社会問題について、新聞記事を探し、過去にも遡り、調べ学習を行う。
- ②過去から現在までの事実を基に 10 年後の未来を想像し、必要なことは何かを考える。
- ③「ひと」の形式に則り表現する。

〈制作時期〉

3 学期

〈生徒作品〉





〈生徒感想・抜粋〉

活動を通して自身の職業理解を深めることができた。困っている人を助けたいという漠然とした思いはあったけど、具体的にどんな人々が困っているか、どんなふうに寄り添っていくのかを考えていなかったの、明確な目標を持つことができて良かったと思います。

今回の活動を通して、自分の将来を詳しく予想することができ、これからどのような学習や生活をしていけばよいのか明確になった。他のメンバーの文章を見て、みんなそれぞれ将来のなりたい自分を細かく考えていて、自分にも参考になることがあったので、しっかりと吸収してこれらにつなげていきたい。

〈成果と課題〉

1学期:先生方にインタビューをして「ひと」を書く活動、2学期:新聞記事について分かりやすく紹介する活動を実施していたため、3学期の授業時間のあまりない中でも比較的スムーズに今回の活動を行えた。感想を見る限り、個人差はあれども目標とするところはほぼ達成できた。

3年生全員に取り組ませたい活動である。しかし、上記のように段階的な指導が必要なため、国語表現の授業のないクラスについて、どのように実施できるかという検討と、他の教員との連携が課題である。

実践例②「新聞作成(学科紹介・修学旅行)」

〈実施クラス〉

- 3年STW現代文・3年国語表現
- 2年国語表現

〈目標〉

新聞の紙面構成の特徴を知り、相手を意識し、必要な情報の取捨選択や理解しやすい表現を工夫する力を養う。

〈生徒作品〉



〈2年国語表現・生徒感想・抜粋〉

普段何も気にせず読んでいた新聞は、題名、レイアウト、相手に伝わる内容、写真を貼る位置や大きさ、文体など、さまざまな工夫がされていたことに気づくことができました。

情報を集めたり、相手にどう伝えたら分かりやすいかなど、難しいところが多くあった。3年生の先輩方は去年コロナで行けなくなってしまったので、行った気分になってもらえたらと思い、内容や写真を工夫した。ガイドブックや感想文にならないようにするのが難しかった。

新聞づくりを進める中で、修学旅行の振り返りや学びを発見することができました。佐伯とは違った気候や建物、各土地によって工夫されているところがあることに気づき、おもしろい発見ができました。

私は文章をたくさん書く力がついた。でも、内容の濃さと量が一致せず、ただ長くて中身のない文になることも多い。これからも文章を書く力を伸ばしていきたい。

〈成果と課題〉

これまでに新聞作成の経験があまりなかったということもあり、2年生も3年生も四苦八苦していた。自分たちが良ければそれでよいというわけではなく、相手意識を持って必要な情報を考えるということで何度も推敲を重ね、当初予定の倍近くの時間がかかってしまった。授業時間の確保が最大の課題だろう。

完成した作品は、昇降口前の掲示板（全学年の生徒が通る場所）に掲示し、他学年・他学科の生徒の目にも触れるようにしている。取り組む生徒の目的の明確化のみならず、他学年生徒への意識づけ等の効果もある。

（3）各種コンクール等への応募

〈目的〉

学年課題または授業の一環で取り組み、学力の伸長を図るとともに、生徒のモチベーション維持、また、その高揚を図るため。

〈今年度の応募先〉

- ・第12回いっしょに読もう新聞コンクール
- ・第7回私の折々のことばコンテスト
- ・JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト

※国内機関長賞1名受賞

- ・切り抜き新聞グランプリ

※学校賞受賞

- ・意見文の投稿（地歴公民科から）

豊南7期生

3Aの意見文が掲載されました！

指導：社会科 野村先生



〈成果と課題〉

団体やクラスメイトが入賞することはもちろんのこと、各自が参加賞を頂けるだけでも、頑張ったことが実を結ぶように感じられたようで、さらに積極的に取り組もうとする姿勢が窺えた。他教科や長期休業中の宿題との兼ね合い（重複を避ける、全体量のバランスを取る等）への配慮が不可欠である。

4. 終わりに～今後の課題

今年度、実践計画に挙げた中でやり残したのが、またしても「他教科におけるNIE実践の集約」である。他教科・他学科で行われているNIEの実践があるにも関わらず、集約して形に残すことができなかった。

実践目標3「連携の取れた組織体制の構築」を達成すべく、連携・組織の在り方を再考し、取り組みのさらなる発展を図り、子どもたちの成長に資する活動を行なっていきたい。

高校は多くの場合「社会へと出ていく直前の段階」。現実的に「社会で生きていく自分」を実感するときであり、自分がどう生きるか（どんな社会に生きるか）について切実さを持って考えられるときである。18歳成人の現在、労働・金融・消費等、高校卒業後すぐに（または在学中であっても）巻き込まれる可能性のある社会問題は山積しており、格差社会や環境問題等も皆がその渦中にある。誰もが社会問題の当事者として考え、行動する必要がある。

新聞を通して、社会の実相と多様な立場や考え方を知ることができ、自分の生き方を選択する・社会の在り方を考えられるよう、これからも新聞を活用した取り組みを行っていきたい。



2022 年度大分県N I E 実践指定校

校種	学 校	学 校 長	実践代表者	指 定 年 度
小学校	中津市立三郷小学校	入江 桂子	瀬口 保美	2021
	大分市立城南小学校	池田 憲彦	大津 友香	2022
	佐伯市立八幡小学校	小嶋 眞二	川野 弥生	2021
中学校	別府市立中部中学校	佐藤 裕一	佐藤 裕一	2022
	竹田市立竹田南部中学校	安東 大暁	佐藤 美登里	2022
	日田市立前津江中学校	梶原 英幸	梅田 由紀夫	2022
高校	大分県立大分舞鶴高等学校	久保田 圭二	中川 博至	2015
	大分県立佐伯豊南高等学校	今西 恒夫	小坂 吏香	2021

2022 年度大分県N I E 推進協議会の活動

1 学期 ～夏休み	第 13 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」募集	10/8	第 109 回N I E 実践研究会 第 32 回事務局会
5 月	県N I E 推進協議会総会（持ち回 り開催）	11/12	第 110 回N I E 実践研究会 in 印刷 センター
6/11	第 105 回N I E 実践研究会 第 30 回事務局会	11/16	第 72 回「県学校新聞コンクール」 出品締め切り
6 月	第 72 回「県学校新聞コンクール」 募集開始	12/8	第 72 回「県学校新聞コンクール」 審査会
7/9	第 106 回N I E 実践研究会 in 印刷 センター	12/10	第 111 回N I E 実践研究会 第 33 回事務局会
8/4.5	第 27 回N I E 全国大会宮崎大会 （宮崎県宮崎市）	12/13	第 13 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」地域独自表彰発表
8/20	第 107 回N I E 実践研究会 第 31 回事務局会	1/14	第 112 回N I E 実践研究会 in 印刷 センター
8/23	県N I E 実践懇談会	2/11	第 113 回N I E 実践研究会（第 7 回 N I E 子ども会議）
9/7	第 13 回「いっしょに読もう！新聞 コンクール」出品締め切り	2/21	県N I E 実践報告会
9/10	第 108 回N I E 実践研究会 in 印刷 センター	3/11	第 114 回N I E 実践研究会 in 印刷 センター

【県NIE実践研究会】活動リニューアル、子ども会議2年ぶり対面開催

年度当初は新型コロナウイルス感染拡大のため6月からの開催となった。また、本年度より開催方法を見直し隔月で会場と内容を変更した。偶数月は大分合同新聞社本社でこれまで通りの講演会、実践報告、ワークショップ。奇数月は大分合同新聞社印刷センター（大分市佐野）で「すぐに授業で使える新聞ワークシートづくり」を実施。参加教員による意見交換を重視するスタイルとなった。



2月には「第7回NIE子ども会議」を2年ぶりに対面で開催。希望者はオンライン視聴も可能なハイブリット形式とした。教員関係者や保護者など約30名が会場で見守る中、マスク越しではあったが、児童・生徒の活発な発表や意見交換で非常に有意義な学びの場となった。



事務局では、当研究会活動PRと参加者増を目的に、9月開催分から「NIE実践研究会レポート」を毎回終了後に作成し、県内の教育関係者へ配布を行った。

2022年9月

Newspaper in Education
新聞を教材に使う教員らの自主組織「大分県NIE実践研究会」

NIE実践研究会レポート vol.1

先日、9月10日（土）は大分合同新聞社印刷センターにて第108回NIE実践研究会を開催しました。印刷センター（奇数月開催）では毎回「すぐに授業で使えるワークシートや授業づくり」を目的に、参加の先生方がワークショップや意見・情報交換を行います。今回は校通・学年・科目別など、授業目的ごとに活用できる新聞記事選びを行いました。より実践に役立つための活動として、皆さん真剣な表情で取り組まれていた姿が印象的でした。

①記事選び…冒頭に平山立憲代表（大分市別所小学校教頭）から本日の活動について挨拶があり、早速、約1時間かけて各自がそれぞれの視点で記事選びを行いました。

②スクラップワークシート…後半は各自が「新聞スクラップ・ワークシート」に必要な事項を記入し、選んだ記事を取り付けました。

③発表・質疑・意見交換…最後はそれぞれが記事を選んだ理由などを披露し、質疑や意見交換を行いました。
「この記事で地域を学ぶようになった教育になる」「自分の長さを再認識できる記事」「国語で文章力向上に使えるが、総合の学習でも活用できる」などそれぞれの記事を見ているいるる気付きも得られた意見交換ができました。

今回で参加の皆さんは常連の方々のみの少数者でしたが、たくさんの授業で使える記事スクラップが完成し、充実した活動になりました。

完成したスクラップシートはホームページ「大分合同新聞のNIEページ」に掲載します。NIE活動に実績のある先生方が選んだ記事をご活用いただけます。

★今後の実践研究会開催予定★

- 第109回 10月8日（土）14:00～16:00/場所：大分合同新聞社本社（大分市内町）
講演：井筒通信社大分支店長、久保裕一氏「通信社の業務」/実践報告・ワークショップ
- 第110回 11月12日（土）14:00～16:00/場所：大分合同新聞社印刷センター（大分市佐野・大分流通団地内） すぐに授業で使えるワークシートや授業づくり

「大分県NIE実践研究会」は、毎月1回（原則、第2土曜日）に研究会を開催しています。教育関係者の参加は無料で事前の申し込みなしで自由に参加できます。NIEを共通テーマに幅広い意見交換ができ、実践の輪が広がります。気軽に参加してください。

【お問い合わせ】大分県NIE推進協議会（大分合同新聞社 地域連携室内）
TEL097-538-9729/FAX097-538-9810
E-mail:nie@oita-press.co.jp
Facebookページ：https://www.facebook.com/NIEoita

大分合同新聞社
NIEページ

2022年2月

Newspaper in Education
新聞を教材に使う教員らの自主組織「大分県NIE実践研究会」

NIE実践研究会レポート vol.6

2月11日（土）の第113回実践研究会は「第7回NIE子ども会議」を開催しました。2年ぶりのリアル開催となり、登壇の児童・生徒5名のほか、約30名の教育関係者や保護者が参加しました。マスク越しではありましたが、登壇した児童・生徒の堂々とした活発な発表に一堂感心しきりでした。新聞を通じて社会や地域に関心を広げること、子どもたちが大きく成長していく姿が確認でき、非常に充実した会となりました。

心に残ったNIEの授業や活動を紹介
最初少し緊張しながら自己紹介。司会の水校長からの質問に丁寧に答えていくうちに次第に積極的な姿勢に。NIEを通してできるようになったことや、役立ったこと、興味・関心があったことについて発表。NIEを経験する前後での変化や、新聞との関わり方の変化について、それぞれ詳しく紹介しました。
また、お互いの活動についての質問や意見を求める姿も。校種や地域の違いを見出し、お互いの共通点について認め合いながら学びを深めました。

会場からの質問にも全員はっさりど、自分の言葉で返える姿が印象的でした。新聞社や授業を行う先生、会場へのお誘いや意見を、嬉しかった則を身を持って学び、参加された皆さん全員にとって学びの多い時間でした。
今回の詳細は3月19日（日）に大分合同新聞社上で掲載予定です。是非、ご覧ください。

【登壇者】
大分市別所小学校 児童5名
会場で大分県NIE実践研究会の
普及活動の一環として、大分市別所
小学校印刷センターで新聞選り
大分県新聞社 事務局員

【写真】
印刷センター印刷センター
（大分合同新聞社印刷センター）

★今後の実践研究会開催予定★

- 第114回 3月11日（土）14:00～16:00/場所：大分合同新聞社印刷センター（大分市佐野・大分流通団地内） すぐに授業で使えるワークシートや授業づくり
- 第115回 4月8日（土）14:00～16:00/場所：大分合同新聞社本社（大分市内町）
講演会：大分市別所小学校 平山立憲 教頭、新聞を使ったワークショップなど

「大分県NIE実践研究会」は、毎月1回（原則、第2土曜日）に研究会を開催しています。教育関係者の参加は無料で事前の申し込みなしで自由に参加できます。NIEを共通テーマに幅広い意見交換ができ、実践の輪が広がります。気軽に参加してください。

【お問い合わせ】大分県NIE推進協議会（大分合同新聞社 地域連携室内）
TEL097-538-9729/FAX097-538-9810
E-mail:nie@oita-press.co.jp
Facebookページ：https://www.facebook.com/NIEoita

大分合同新聞社
NIEページ

大分県N I E推進協議会 会則

- 第1条（名称） 本会は、大分県N I E推進協議会と称する。
- 第2条（目的） 本会は教育界と新聞界が協力し、新聞を生きた教材として活用するための研究と実践を通して教育内容を豊かにするとともに、情報化社会における情報活用能力を高めて、幅広い人間形成に役立たせることを目的とする。
- 第3条（事業） 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。
○N I E実践指定校・実践者を選定し、日本新聞協会に推薦
○N I E実践指定校・実践者の支援、助成
○N I Eに関する研究会の開催、実践報告書の作成
○N I Eに関する普及、啓発活動
○その他、本会の目的達成上必要と認めた事項
- 第4条（会員） 本会は本会の目的に賛同する次に掲げる者で構成する。
○大分県教育委員会、大分市教育委員会、大分県立学校長協会、大分県中学校長会、大分県小学校長会、大分県私立中学高等学校協会の各代表
○N I E実践指定校の代表
○大分県報道責任者会加盟の新聞・通信8社（朝日、大分合同、共同通信、時事通信、西日本、日経、毎日、読売）の各代表
○その他、本会で必要と認める団体・個人
- 第5条（顧問） 本会に顧問を置くことができる。顧問は本会の目的達成のため助言をする。
- 第6条（役員） 本会は次の役員を置き、総会において会員の中から互選する。
○会長 1人
○副会長 若干名
○委員 若干名
○監査 2人

役員の仕事は次の通りとする。

○会長は本会を代表し、会務を総括する

○副会長は会長を補佐し、会長が欠けたときは職務を代行する

○委員は会務を処理する

○監査は会計を監査する

役員の仕事は1年とし、再任を妨げない。

第7条（総会）

本会は年1回定期総会を開く。

○総会は会長が招集し議長となり、事業計画、運営に関することを決定する

○その他会長または会員の多数が必要と認めた時に、臨時総会を開くことができる

第8条（委員会）

委員は必要に応じ委員会を開く。委員会は事業計画の遂行に必要な事項を協議、決定する。

第9条（経費）

本会の運営に関する経費は、加盟する新聞・通信社の会費および個人・団体からの補助金、その他の収入を充てる。会費は新聞社が年額6万円、通信社が3万円とする。

第10条（事務局）

本会の事務局を大分合同新聞社内に置く。

第11条（実践研究会）

NIE推進のためのワーキンググループとして小中学校、高校、特別支援学校の教員等による大分県NIE実践研究会を置く。

第12条（事業年度）

本会の事業年度は毎年4月1日から、翌年3月31日までとする。

第13条（補則）

この会則に定めるもののほか、本会に必要な事項は別に定める。

付則
改定

本会則は2010年6月4日から実施する。

2013年6月11日

2015年6月22日

2022年6月3日

2022年度大分県N I E推進協議会役員等

＜顧問＞	岡本天津男	大分県教育長
	佐藤 光好	大分市教育長
＜会長＞	堀 泰樹	大分大学名誉教授
＜副会長＞	西村 和文	大分県立芸術緑丘高等学校長（県立学校長協会代表）
	安藤 陽子	大分市立丹生小学校長(県小学校長会代表)
	生野 京子	大分市小中一貫教育校賀来小中学校長（県中学校長会代表）
	小山 康直	大分高等学校理事長（県私立中学高等学校協会会長）
	久保田圭二	大分県立大分舞鶴高等学校長(実践指定校代表)
	下川 宏樹	大分合同新聞社上席執行役員編集局長（新聞・通信社代表）
＜委員＞	山田 誠司	大分県教育庁高校教育課長
	武野 太	大分県教育庁参事監兼義務教育課長
	江隈 英明	大分市教育委員会学校教育課長
	高嶋 健	朝日新聞社大分総局長（監査）
	堺 拓二	読売新聞社大分支局長（監査）
	荒木 隆則	時事通信社大分支局長
	久保 祐一	共同通信社大分支局長
	西山 忠宏	西日本新聞社大分総局長
	松尾 哲司	日本経済新聞社大分支局長
	江口 一	毎日新聞社大分支局長

＜N I Eアドバイザー＞

佐藤由美子	大分大学教職大学院特任教授
塩川 美紀	元教諭
永松 芳恵	臼杵市立佐志生小学校長
平山 立哉	大分市立別保小学校教頭
安東 浩子	豊後高田市立河内中学校教頭
佐藤美登里	竹田市立竹田南部中学校教諭
小坂 吏香	大分県立佐伯豊南高等学校教諭
田邊 玲子	日田教育事務所次長
佐田 香織	大分県立大分豊府中学校指導教諭

＜事務局＞	事務局長	三股 秀明	大分合同新聞社総合企画局地域連携室長
	事務局次長	佐藤 良昭	〃 地域連携室マネージャー
	事務局員	瀧本 詩乃	〃 地域連携室
	〃	小代 純子	〃 地域連携室
	〃	田口 麻加	〃 地域連携室

＜発行＞2023年4月

大分県NIE推進協議会事務局

〒870-8605 大分市府内町3-9-15(大分合同新聞社地域連携室内)

☎097-538-9729 fax097-538-9810 ✉nie@oita-press.co.jp